

令和6年度 第1回羽曳野市子ども読書活動推進委員会会議録（要録）

日 時： 令和6年8月28日(水) 14時00分～15時20分

場 所： 羽曳野市役所 別館2階研修室

出席者：（委員）前田会長、高崎副会長、大西委員、佐原委員、永尾委員、畑委員、藤井委員、間下委員、脇谷委員（会長・副会長以下五十音順）
（教育委員会）村田教育長、田中教育監兼生涯学習部長、松尾次世代育成課主任
（事務局）藤本館長、白江主事、岩佐再任用

欠席者： 江川委員

傍聴者： なし

次第

1.開会

教育長あいさつ

事務局より、会議録の要録をWEB及び中央図書館にて紙ベースで公開すること、そのため会議を録音することを報告

委員の紹介、出席者9名で委員会成立の報告、事務局職員の紹介

2.議事

1. 第3次羽曳野市子ども読書活動推進計画の進捗状況について
2. 子どもの読書活動に関するアンケート（案）について

3.閉会

教育監兼生涯学習部長あいさつ

報告

1. 第3次羽曳野市子ども読書活動推進計画の進捗状況について
配布資料「羽曳野市子ども読書活動推進計画に関する進捗状況」に基づき説明。
2. 子どもの読書活動に関するアンケート（案）について
第4次羽曳野市子ども読書活動推進計画の策定にあたり関係団体へアンケートを依頼する予定であることを説明。

意見等

- ・アンケートはその結果を活かすために取るものであり、前回は今回も詳細なアンケートを取っているが、前回のアンケートの結果は具体的にどう活かされたのかを知りたい。
- ・進捗状況の報告もしていただいたが、子どもの読書活動が推進されているのか、いまひとつ見えてこない。
- ・アンケートを取った結果、ここが問題だと分かったのでこういう取り組みをしましたというのが必要なのではないか。

・羽曳野市の場合は学校図書館に司書を配置、ボランティアのみなさんがあちこちで子どもたちに読み聞かせをしているのも大きな役割を果たしていると思う。家庭に本が少ない、本を持っている・持っていないというのは家庭の経済状態等が関わる。それなら本の購入に対して補助を出すとか、本を持てるようにするとか取り組みをするのかしないのか。結局は人。本は置いているだけでは読まない。誰か人が介在しないと読むようにならない。そういう部分も含めて読書活動推進を進めるにあたっては必要な措置をとっていくということをも市として考えているのか。今までやったことに手応えを感じているのか聞きたい。

→細やかなアンケートの回答がなされているが、それについては第4次子ども読書推進計画に反映していく形で策定していくことがあるべきかと思う。そういう形で進めていけるように皆様に忌憚のないご意見を出していただいて計画を進めていきたいと思う。

・子どもの読書活動の支援という形ではおはなしボランティアグループ「はびきの」もされておられるので、アンケートの対象におはなしボランティアグループ「はびきの」も入れていただくのはどうか？

→もちろん(アンケートに)回答させていただきたい。

・変化がないというお話だったが、おはなしボランティアグループ「はびきの」は学童に行かせていただいたのが2校の小学校だったが、今年は7校から依頼があった。会長がおっしゃった時にみんなそんなたくさんいけるかなとたじろいだが、手分けして全ての学校に行かせていただいた。変化といえば変化だと思う。

→アンケート結果をどのように反映させていくかはすぐに目に見えてくることではないが、折角こうしてアンケートをとって皆様がきちっと回答してくださるのでこれを活かすべく働きかけていきたいと思う。

・子どもの読書離れが進む中で、子どもたちが読書に興味を持ってもらうにはどうすればよいのか。もしお考えとしてお聞かせいただけるのであればお願いしたい。

→一つの方法としては、アニメーションという手法がある。ただ本を読むだけでなく、ゲーム感覚を取り入れたりしながら考えることと結びつけて主体的に読んでいく。年齢に関わらずできるので、例えば学校司書の先生を対象に研修等をして読む力を育てるという取り組みとうのも方法としてある。ただ「本を読みなさい」だけでは主体的な読書や最終的に生きる力に結び付く読書というのは難しい。

・こども園のほうではおはなし会等の取組がないと話になっていたが、今後については？

→コロナ以前はおはなし会を定期的で開催していたが、今はいろいろな行事があり定期的というのは日程的に難しい。去年は園内ではおはなし会はしなかったが、近所にバラ園があり、そこへボランティアさんに来てもらいバラの中でおはなし会をしていただいた。とても

素敵な時間で子ども達もすごく喜んでいて。ぜひ調整しながらおはなし会を取り組んでいきたいとは思っている。

→未就学の子どもにとっては自分で本を読むということもできないので、まずは絵本を読むとか読んでもらう以前の言葉に慣れるとか、物語を想像する、耳で聞いた言葉を自分の頭の中でイメージするということで、していただいたおはなし会や素話が読書に結び付くとは言いにくいですが素地を育むという面では良いのではないかと考えて私たちは活動している。できるだけ協力させていただくので、ぜひともこども園のほうでもご検討いただけたらと思う。

・以前は4か月検診での待ち時間にボランティアが絵本を読んであげるということをしていた。4か月の子でも目で追うということをしていて、お母さんがそれを見てこの年の子どもも絵本を楽しめるのだと思い、図書館行こうかなと思ってもらえたのではないと思う。パンフレットだけではなく実際に経験してもらうことで繋がるのかなと。今は途絶えてしまっているが、できれば保健センターに働きかけて、ボランティアや団体を募ってそういう機会に0歳から図書カード作れます、好きな絵本を借りてくださいと図書館をアピールしてもらうことができると思うので考えていただければと思う。

→図書館のほうから関係課に働きかけをさせていただき、そういった機会をもたせていただけたらと思う。

・MOMOプラザで、月1回「すこやか広場」というものをしており、お手伝いに行っている。0、1歳くらいの親子対象で絵本の話をしてもらえませんかということで去年1回行かせていただいたが、「こんな絵本を楽しみますよ」とお話しすると、「案外こんな本でも楽しめるのか」と実際に経験してもらって「こんな本も借りてみようかな」と思ってくださった方がいた。だからやはり親子で楽しむような機会を図書館で考えてもらえたらなと思う。
→年齢に応じたおはなし会ということでいくと定例のおはなし会は比較的若い子どもを対象としたおはなし会になっていると思う。それ以外では不定期になるが、特集を組んでいるおはなし会があり、例えば夏場にやっている「こわいおはなし会」だと小さいお子さん向けや大人の方向けなど広い世代を対象に開催している。

・小学校のアンケートで電子図書館や多国籍の子どもがいますかというアンケートの項目が追加されているのは、バリアフリー法とかの関係なのか？

→電子図書館は令和4年度途中から始まった。現状なかなかコンテンツを増やすことができていないが、学校向けにおいては何度でも読めるコンテンツがありその利用状況について知りたい。GIGAスクール構想で一人一台タブレットが配布されており、そちらを用いて電子図書館にアクセスしていただいてタブレット上で書籍を読んでいただくことが可能となっているなかでどれだけの利用があるのか把握したいということでアンケートに加えてさせていただいている。

→外国籍の方に対するアンケートについては、実際のところ学校によって外国籍の生徒がい

らっしゃると聞いているので図書館として把握させていただきたいのでアンケートに盛り込んでいる。

・アンケートを取るということはそれに関して何か取り組んでいこうという意思はあるということか？

→はい。多言語の資料は高価なのでどれだけニーズに応えられるのかは我々の努力ということにもなってくるが、まず現状を把握して行動することになる。